

令和4年EdTech導入実証事業報告

埼玉県立坂戸高等学校
教諭 西山涼太

1. 学校概要

本校は埼玉県の公立高校で 7 校しかない外国語科を設置しており、各学年に普通科 8 クラス、外国語科 1 クラスがある。目指す学校像は、文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校であり、数多くの生徒が学習にも部活動にも熱心に取り組んでいる。県内唯一 4 5 分×7 時間授業を実施しており、生徒の多様な進路希望に応える様な指導を日々実践している。部活動も非常に活発で、特に文化部の美術部や放送部、ギター部などは全国大会にも出場している。

2. 実施コース

外国語科 2 学年 4 1 名（男子 1 6 名、女子 2 5 名）

3. 実施授業

英語表現 3 単位

担当：西山涼太

日本人英語教員 2 名と A L T 1 名のティーム・ティーチング授業

4. 授業の目的

ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになるための指導を行う。具体的には、本格的にディベートの形式を学び、自分の意見を英語で発信できるスピーキング力を伸ばす。そこから更にディスカッションが自然にできるよう目指す。同時に、アカデミックなライティング指導も始め、パラグラフからエッセイまでまとまった量の英文が書けるよう指導する。

5. 授業の年間指導計画

月	指導内容
4月	アカデミックディベート（1）
5月	アカデミックディベート（2）
6月	アカデミックディベート（3）
7月	アカデミックディベート（4）
8月	ディスカッション（1）
9月	ディスカッション（2）、模擬国連（1）
10月	ディスカッション（3）、模擬国連（2）
11月	ディスカッション（4）、模擬国連（3）
12月	模擬国連（4）、プレゼンテーション
1月	ディスカッション（6）、アカデミックライティング（1）
2月	ディスカッション（7）、アカデミックライティング（2）
3月	ディスカッション（8）、アカデミックライティング（3）

6. 使用教材

①通年

- ・ Basic Steps to Academic Writing (CENGAGE Learning)
- ・ 本校独自ディベート教材

②9月～12月

- ・ やさしい英語でSDGs! (合同出版株式会社)
- ・ AFP通信データベースサービス AFP World Academic Archive

7. 本事業の実施期間および内容

2021年9月1日～2021年12月24日

8月	SDGsの導入、SDGsに関するディスカッション
9月	SDGsに関するディスカッション
10月	SDGsに関するディスカッション・模擬国連の導入
11月	SDGsに関するディスカッション・模擬国連準備
12月	校内模擬国連・プレゼンテーション

＊本事業終了後もSDGsに関するディスカッションを継続して行い、卒業論文執筆につなげていく。

7. 本事業の実施期間および内容

日時	内容	日時	内容	日時	内容	日時	内容
9/1	SDGsの導入	10/4	Goal 6	11/1	Goal 11, 12	12/2	模擬国連①
9/9	Goal 1	10/5	Goal 6	11/2	Goal 11, 12	12/6	模擬国連②
9/13	Goal 1	10/7	Goal 6	11/4	Goal 13	12/13	プレゼンテーション
9/14	Goal 2	10/11	Goal 7	11/8	Goal 13	12/16	プレゼンテーション
9/15	Goal 2	10/12	Goal 7	11/9	Goal 13	12/20	プレゼンテーション
9/16	Goal 3	10/21	Goal 8, 9	11/11	Goal 14, 15		
9/18	Goal 3	10/25	Goal 8, 9	11/15	Goal 14, 15		
9/21	Goal 4	10/26	Goal 10	11/16	Goal 16		
9/27	Goal 4	10/28	Goal 10	11/18	Goal 16		
9/28	Goal 5			11/22	Goal 17		
9/30	Goal 5			11/29	Goal 17		
				11/30	まとめ		

8. 本事業における授業の目標

授業の目標

- a) SDGsのテーマを基に、自ら考える批判的思考能力を育成する
- b) SDGsのテーマを基に、自ら調べ、自身の考えを発表する

9. 授業の内容

ディスカッションの授業展開例

1 時間目	2 時間目	3 時間目
①SDGsに関する導入ゲーム ②教材を用いた内容理解 ③教材内の図を基に議論 ④教材を用いた対話 ⑤本時のまとめの英作文	①AFP教材のビデオを視聴 ②SDGsの問題解決に向けた質問を提示 ③ペアやグループで与えられた条件を基に調べ学習	①ディスカッション ②議論の要点を整理する ③学習したSDGsについてのライティングを行う

9. 授業の内容

授業内の活動例

SDGsに関するゲーム

識字率の導入の際のゲーム

識字率の導入として、ペットボトルに水、砂糖水、塩水を用意し、アラビア語で「水」「薬」「毒」と書いて生徒に飲ませた。そこから識字率の問題を考えさせるためのビデオや写真をAFP World Academic Archiveより引用し、紹介をした。



実際に視聴した動画

グループでの調べ学習

ディスカッションやプレゼンテーションのための調べ学習

ディスカッションやプレゼンテーションに向け、諸外国で起きている問題について班で調べ学習を行った。生徒はICTを活用しながら、AFP World Academic Archive等を有効に活用した。



ディスカッション

批判的思考力を用い英語で議論

SDGsのゴールごとにディスカッションの問いを立て、英語でグループディスカッションを行った。ディスカッションとして模擬国連も行うなど、学習した内容を基に自身の意見を英語で伝えることができた。



9. 授業の内容

模擬国連について

授業で学んだSDGsの視点を活かして、本校の授業に合わせた形で模擬国連を行った。テーマは「国連カフェのメニューを決めよう」という比較的話しやすいものにしたが、貧困や教育、水問題、気候変動などSDGsの様々な問題を取り上げて英語で議論をすることができた。AFPのオンライン教材から写真や動画なども引用して使用することで、より有意義な議論へとつなげることができた。事後の生徒の感想でもSDGsの学習のまとめとなるような活動になり非常に有意義なものであった。

2-4 English Expression Discussion <Model United Nations>

Resolution “Deciding the menu of the United Nations Café.”

★Your Country is _____

About the Country You Choose	
Formal Name	
Slogan	
Capital	
National Language	
Total Area	
Population	
Currency	

Research for Food

One Traditional Food / One Drink Menu	Main Foodstuff (Crops, Fishery, etc...)
Religious Issues Related to Food	Others

2-4 No.() Name: _____

9. 授業の内容

プレゼンテーションについて

授業で学んだSDGsからテーマを自分で探し、問題解決のために自分ができることをテーマに英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションにもAFP World Academic Archiveの動画や写真を織り交ぜ、よりオーセンティックな教材などを使用することで説得力のあるプレゼンテーションを行うことができた。さらに、英語での質疑応答を設けることで、生徒の主体的対話的で深い学びへとつなげることができた。



10. 授業の評価方法

(1) プレゼンテーション

前述のSDGsに関するプレゼンテーションを評価

(2) ポートフォリオ（ディスカッション）

前述のディスカッション後に自身の意見を英語で書かせて評価

(3) レポート

AFP World Academic ArchiveのTEXT STORIESの記事をいくつか用意し、その記事の要約や考察を英語でまとめ、オンラインで提出し、それを評価

(4) 定期考査

定期考査にて2学期（9月～12月）に行った授業の内容を評価

1 1 . 授業の振り返りおよび今後の課題

I. 良かった点

①オーセンティックな教材の活用

AFP通信データベースサービスAFP World Academic Archiveの活用により、よりオーセンティックな写真や動画、読み物等に触れることができた。『やさしい英語でSDGs！』でSDGsについて学び、World Academic Archiveを活用することで一見問題を自分事にしにくい内容であっても、自身の視点から考えさせる工夫ができた。また、生徒自身も本データベースサービスを使いながら、どのような写真でどのように相手を説得させるかを自ら考えることができた。

また、本サービスは英語の授業と非常に相性が良く、様々な科目の中で柔軟に活用できると感じた。実際に、他の科目でも動画などを活用したが、生徒の理解度に寄与する非常に良いものであった。

1 1 . 授業の振り返りおよび今後の課題

②情報収集の機会

授業を通じて、説得力のある写真や動画、読み物にどのようにアクセスしたかを学ぶことができた。伝えたい内容を最大限に伝えるにはどのような写真が最も適当かを考えながら、情報収集をする点では、そのような力が求められている中、非常に有意義であった。

③授業設計のしやすさ

前述のように、オンラインデータベースサービスや教材を柔軟に活用することができた。授業自体の設計にも大きく貢献したが、写真や動画、読み物を活用してパフォーマンステストや考査等の評価にも活用することができた。本校の外国語科では3年間を通じて英語で卒業論文を執筆する。今回学習したSDGsの内容を基に、「Problem-Solution型」か「Research型」で論文を書くが、執筆への橋渡しとなる授業を展開することができた。また、オンライン上での活用ができるため、GIGAスクール構想 一人一台端末などICT充実の中、卒業論文のためのポートフォリオの作成も充実した。

1 1 . 授業の振り返りおよび今後の課題

④生徒の学習状況の把握

今回はオンライン上でポートフォリオを作成し、自身のレポートや使用した写真、動画、読み物等をすべて保存させた。フィードバックも含め、すべてオンライン上にあり、担当教員は逐一生徒のプロジェクト等の進捗状況を確認することができた。その学習の進捗確認を基に、生徒に的確にアドバイスをすることでより効率的なプロジェクト型学習となった。

⑤学びの深まり

本事業前後に簡単なアンケートを実施したが、約92%の生徒が学びが深まったと回答した。実際に定点で行っている思考力テストでも例年と比べ全体的に点数が高かった。生徒自身が学びが深まったと感じられたことは非常に重要であり、学びの深化を伺うことができた。

1 1 . 授業の振り返りおよび今後の課題

Ⅱ . 今後の課題

①学校全体での活用

今回は対象の1クラスのみでの実施となったが、非常に有効なものであることが分かった。他教科他科目でも活用することでさらに生徒の学びのプロセスが可視化され、生徒も自身の主体的な学びを具現化することができると考える。外国語教育でCLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）が謳われているが、他教科でも自身のデータベースを増やしていくことで生徒自身の学びの引き出しが増えると考え。そして教科横断的な学習につながったり、総合的な探究につながったりする。そのため、学校全体でこのようなサービスを活用し、一つの学びの軸を作っていく必要があると考える。

1 1 . 授業の振り返りおよび今後の課題

②生徒の学習成果の公開

生徒の学習成果を校内の一部でのみ公開を行ったが、充実した学びであったため、外部に発信することができたらと考える。模擬国連やディスカッションは他校で同じような課題解決のタスクを行っている生徒とオンラインなどでつながって意見交換ができると考える。また、プレゼンテーションは地域や学校間、企業や行政などと連携をし、意見を発表する機会を設けることで生徒の学習の動機付けにさらに寄与すると感じた。同時に、地域連携などで実際にアイデアを社会に発信し、新たな学びにつながると考える。

より多くの視点を取り入れることでさらなる学習の深まりが生まれるため、外部連携は今後必要不可欠となると確信する。